

MIHO MUSEUM（滋賀県甲賀市信楽町田代桃谷 300 館長：熊倉功夫）は、2018 年（平成 30 年）3 月 10 日（土）～6 月 3 日（日）までの期間、春季特別展「^{さるがく}猿楽と^{おもて}面 —大和・近江 および 白山の周辺から—」を開催いたします。

2018 年春季特別展

^{さるがく}猿 ^{おもて}楽 と 面

— 大和・近江 および 白山の周辺 から —

重要文化財 80 点、総数 350 点にのぼる秘蔵の古面が勢揃い！



—
善哉
—
よきかな

図1 「旧金剛宗家伝来 翁 伝日光作」
〔重要文化財〕室町時代 東京都・三井記念美術館蔵
展示：4/10～5/6

開催概要

◇ 開催趣旨

猿楽^{さるがく}とは、古くは「さるごう、さるがう」とも読まれ、能と狂言で構成される現在の能楽(※1)のかつての呼び名です。猿楽の起源は、通説では大陸伝来の散楽^{さんがく}に由来し、日本古来の芸能と融合しながら芸術的完成度の高い歌舞劇へと進化して、今に至ったとされています。

平安後期に書かれた藤原明衡^{あきひら} (989-1066) の著作『新猿楽記』には、奇術、曲芸、歌や舞、人形劇、滑稽な物まね芸を伴う寸劇など、多種多様の演目が紹介され、当時の人気ぶりが伝えられています。やがて田楽^{でんがく}、傀儡^{くぐつ}、猿楽などそれぞれが職業化していき、有力な猿楽師は大社寺に所属して座を形成し、祭礼や法会の儀式の一部や余興を担っていくようになりました。

田楽を含めた多くの座が人気を競い合い、また影響しあう中で、室町時代初期から足利将軍家や大社寺の庇護のもと、

猿楽は隆盛を迎えました。観阿弥^{かんあみ} (1333-1384) は、大和猿楽の伝統である物まね芸(人の感情や行動を模す芸)に、当時流行の田楽や曲舞^{くせまい}の諸要素を採り入れて人気を博しました。その子世阿弥^{ぜあみ} (1363?-1443) は、鑑賞者に上流貴族層を想定し、古典や戦記物に範をとり、洗練された夢幻能^{むげんのう}(シテが超自然的な神、霊、精など)や、現在能^{げんざいのう}(シテが実在した人物)を確立させ、歌舞劇としての能を大成させました。

本展覧会は、興福寺や春日大社などに猿楽を奉仕した大和四座(※2)の本拠地大和、世阿弥の『風姿花伝』や『申楽談義』に大和猿楽に並ぶ勢力として登場し、延暦寺や日吉大社などに猿楽を奉仕した近江、そして霊峰白山の参拝口である加賀馬場、越前馬場、美濃馬場の祭礼に使われた面^{おもて}などを幅広く展覧します。

平安後期から鎌倉時代の古面に始まり、南北朝から室町、安土桃山時代の大成期にわたる350点(うち重要文化財80点)の「面」を通して、主に彫刻史の観点から、文化芸能史、文学史の側面も絡めて、中世の人々が熱狂した猿楽の世界を紐解いていきます。

※ 会期中展示替えあり

※1 明治14年(1881)の能楽社の設立以来、能楽の呼称が一般化した。

※2 大和四座: 結崎座(観阿弥、世阿弥を輩出・後の観世流)、円満井座(後の金春流)、坂戸座(後の金剛流)、外山座(後の宝生流)



「信西古楽図」(部分)
江戸時代 18世紀
(原本は室町時代 15世紀)
東京藝術大学大学美術館蔵
展示:3/10~4/22

◇ 展覧会名：春季特別展「猿楽と面さるがく おもて - 大和・近江 および 白山の周辺 から -」

◇ 英語タイトル：Spring session:

“Sarugaku Masks: Shaping the Culture of Noh”

◇ 開催期間：2018年（平成30年）3月10日（土）～6月3日（日）

◇ 会場：MIHO MUSEUM

〒529-1814 滋賀県甲賀市信楽町田代桃谷 300 TEL.0748-82-3411

◇ 主催：MIHO MUSEUM、京都新聞

◇ 後援：滋賀県、滋賀県教育委員会、NHK 大津放送局、BBC びわ湖放送、エフエム京都

◇ 監修：伊東 史朗（和歌山県立博物館長、MIHO MUSEUM 研究顧問、京都国立博物館名誉館員）

◇ 担当学芸員：桑原 康郎（MIHO MUSEUM 学芸員）

片山 寛明（MIHO MUSEUM 特任学芸員）

高梨 純次（公益財団法人 秀明文化財団参事）

- ◇ 展示構成：
1. 猿楽の源流
 2. 猿楽と面 - 大和
 3. 猿楽と面 - 近江
 4. 猿楽と面 - 白山周辺
 5. 近江の面打 - 井関
 6. 狂言

◇ 展示総数：約 370 点（予定・展示替えあり）

重要文化財	84 点（うち面 80 点）
重要美術品	3 点
県・市・町指定品	178 点

重要文化財 所蔵先	点数
中尊寺	1面
天河神社	30面
関市・春日神社	30面
三井記念美術館	5面
東京国立博物館	6面
長瀧白山神社	8面
政所八幡神社	2領

◇ 入館料：一般 1100 円、高・大生 800 円、
小・中生 300 円【20 名以上の団体は各 200 円割引】

◇ 開館時間：午前 10 時～午後 5 時【入館は午後 4 時まで】

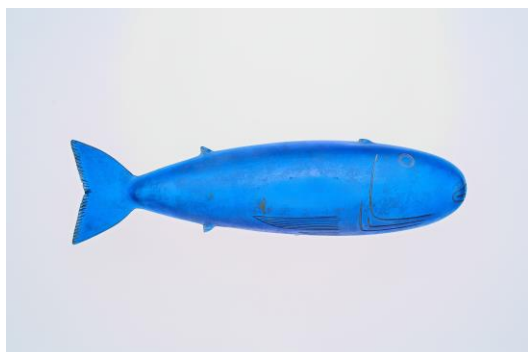
◇ 休館日：毎月曜日【※4月30日（月・振休）は開館、5月1日（火）は休館】

次回予告

2018年6月30日（土）～8月26日（日）

夏季特別展「赤と青のひ・み・つ

—おとなも子どもも遊んでみよう！ 色いろイロの世界」（北館）（仮称）



魚形容器

東地中海地域あるいはイタリア

1 世紀 ガラス MIHO MUSEUM 蔵

イベント & プログラム

☆ 展覧会関連イベント

① 能楽の実演とお話し「能楽ワークショップ」

講師：片山 九郎右衛門（観世流能楽師）

第一部 能楽実演・舞囃子（装束付き）

第二部 能の囃子（笛、小鼓、太鼓）について

第三部 片山九郎右衛門と一緒に謡^{うたい}をうたいます

能面、装束についてのお話しも



●日時：4月29日（日）14:00～15:30 ●会場：南レクチャーホール ●定員：100名

●予約方法：・4/29ワークショップ希望・氏名・住所・電話番号・メールアドレス・参加人数を明記して information@miho.jp までメール送付 ●参加無料（入館料要）

② 講演会「面のおもしろさ」

講師：伊東 史朗

（和歌山県立博物館館長、MIHO MUSEUM 研究顧問、京都国立博物館名誉館員）
本展覧会の監修者。仏像、神像を始めとする日本彫刻史の泰斗が、「面」を通して中世の猿楽の様相を紐解きます。

●日時：4月22日（日）13:30～15:00 ●会場：南レクチャーホール ●定員：100名

●予約不要：当日美術館棟受付にて整理券配布 ●参加無料（入館料要）

③ シンポジウム「猿楽と面の進展—各地に残る面から」

コーディネーター：高梨 純次（公益財団法人 秀明文化財団参事）

パネリスト：池田 淳（吉野歴史資料館 館長）

村上 尚子（石川県立美術館 学芸専門員）

南本 有紀（岐阜県博物館 人文係 学芸員）

戸田 浩之（福井県立美術館 主任学芸員）

●日時：5月13日（日）13:30～15:30 ●会場：南レクチャーホール ●定員：100名

●予約不要：当日美術館棟受付にて整理券配布 ●参加無料（入館料要）

④ ギャラリートーク「学芸員による特別展解説ツアー」

担当；桑原 康郎（MIHO MUSEUM 学芸員）

●開催日：3月24日（土）、4月28日（土）、5月19日（土）、※6月2日（土）

●時間：13:00より約1時間 ※6月2日のみ14:00より

●美術館棟エントランス集合にて展示解説ツアー ●参加無料（入館料要）

☆ 子ども向けプログラム「子どものアトリエ」

① 「古代アッシリアのレリーフ」 3月25日（日）、5月20日（日）

「ローマのモザイク」4月8日（日）

●13:30～16:00 ●小学生対象 ●定員10名 ●材料費500円

●参加する子どもと引率者2名まで入館無料 ●定員になり次第締切

② 「わくわくミュージアム」 ※日時は決定次第HPにて発表

●上記いずれも予約・問合せ：

教育普及担当 TEL. 0748-82-8036 FAX 0748-82-2834

☆ 春のコンサート

「情熱のピアニスト 熊本 マリ・リサイタル ～スピリチュアルワインとともに～」

出演：熊本 マリ （ピアニスト）

- 日時：5月19日（土）15:00～16:30
- 会場：南レクチャーホール ●定員：100名
- 参加費：一般 7,000円

／MIHO MUSEUM 友の会会員 6,000円

※料金には入館料、コンサート鑑賞、スピリチュアルワイン（グラス）を含むワンドリンク、消費税が含まれています。

- マリさんからスペシャル・プレゼント：
19日の本公演参加者は、翌20日開催の特別追加公演に無料ご招待します。代理の方の参加も可能です。
- 予約・問合せ：広報担当 TEL.0748-82-3411
ホームページから申込書をダウンロードし、ファックスか郵送でお送りください。



熊本マリ
©Shimokoshi Haruki

代表作品

※ 報道関係で掲載作品の画像データをご入用の場合、下記までご一報ください。

MIHO MUSEUM 広報 TEL.0748-82-3411（連絡先詳細 P.9）

1. 猿楽の源流



図2 「翁」
鎌倉時代 個人蔵
展示：3/10～4/8



図4 「若女」
〔重要文化財〕鎌倉時代 1291年（正応4）
岩手県・中尊寺蔵
展示：4/10～5/6



図3 「追儺」
安土桃山時代 1581年（天正9）
滋賀県・石山寺蔵
展示：5/8～6/3

2. 猿楽と面 — 大和



図5「若い女」
檜垣本七郎作
室町時代 1493年(明応2)
奈良県・吉水神社蔵
展示:3/10~4/8



図6「尉」(左:表面 右:裏面・部分)
〔重要文化財〕観世十郎元雅寄進
室町時代 1430年(永享2)
奈良県・天河神社蔵
展示:5/8~6/3

3. 猿楽と面 — 近江



図7「三番叟」
安土桃山時代
滋賀県・日吉大社蔵
展示:4/10~5/6

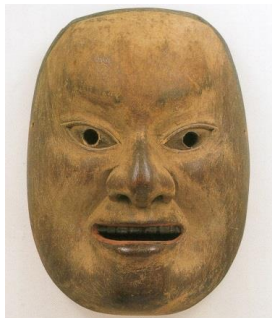


図8「福太夫 出雲作」
〔滋賀県指定〕室町時代 1508年(永正5)
滋賀県・油日神社蔵
展示:3/10~4/8



図9「紅地花唐草入菱文唐織能装束」
〔重要文化財〕安土桃山時代
滋賀県・〔政所〕八幡神社蔵
展示:4/10~5/6

4. 猿樂と面 — 白山周辺



図10「癡見」
〔南越前町指定〕室町時代
福井県・〔南条〕熊野神社蔵
展示:3/10~4/8



図11「父尉」
伝大谷寺伝来 室町時代
福井県・福井県立美術館蔵
展示:5/8~6/3



図12「尉」
〔重要文化財〕
南北朝時代 1371年(応安4)
岐阜県・〔長瀧〕白山神社蔵
展示:3/10~4/8

5. 近江の面打 — 井関



図13「般若」
室町時代 1558年(永禄1)
兵庫県・篠山能楽資料館蔵
展示:4/10~5/6



図14「喝食」
〔重要文化財〕
安土桃山時代 1616年(元和2)
岐阜県・〔長瀧〕白山神社蔵
展示:5/8~6/3



図15「近江女 井関彦次郎作」
江戸時代 1645年(正保2)
福岡県・福岡市博物館蔵
展示:4/10~5/6

6. 狂言



図16「霊獣・猿」
室町時代
京都府・壬生寺蔵
展示:3/10~4/8



図17「祖父」
〔重要文化財〕室町時代
奈良県・天河神社蔵
展示:3/10~4/8



図18「乙」
〔重要文化財〕安土桃山時代
岐阜県・〔関市〕春日神社蔵
展示:5/8~6/3

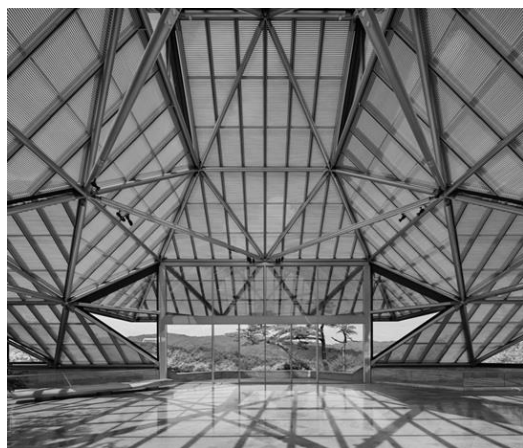
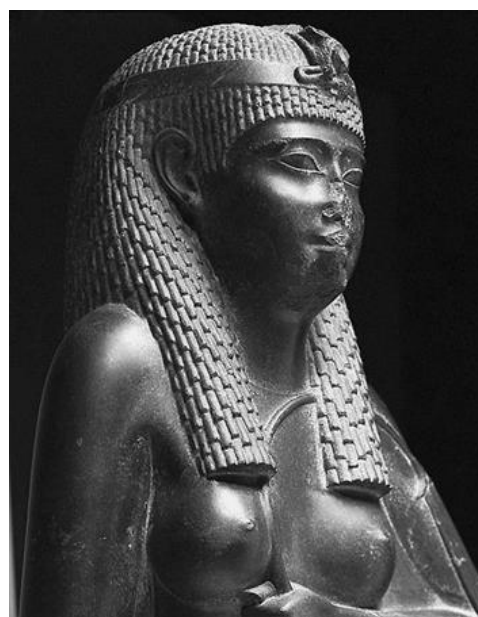
MIHO MUSEUM について



■ **MIHO MUSEUM** は 1997 年 11 月に、琵琶湖の南、自然豊かで風光明媚な湖南アルプスの山中に誕生しました。建築設計は、フランス・ルーヴル美術館のガラスのピラミッド、ワシントンのナショナルギャラリー東館、北京、香港の中国銀行ビル等で世界的に知られる I.M.Pei 氏によるものです。設計のテーマは「桃源郷」。東晋の詩人、陶淵明の「桃花源記」にある仙境の楽園—桃源郷の物語を、構想・設計・建設に 6 年の歳月をかけて、信楽の地に実現したのです。

■ 所蔵品は、エジプト、ギリシア・ローマ、西アジア、中央アジア、南アジア、中国、朝鮮、古代アメリカなどの古代美術と、仏教美術や、茶道美術をはじめ、絵画、漆工、陶磁器などの日本古美術をあわせて、約 3,000 件からなり、季節により国内外からの出陳を加えて、常時 250～500 点を展示しています。

その質の高いコレクションは、ニューヨーク・メトロポリタン美術館、ロサンゼルス・カウンティ美術館、オーストリア・ウィーン美術史美術館、オランダ・ライデン国立古代博物館などで公開され、海外からも高く評価されています。



■ 美術館棟は「自然と建物と美術品」「伝統と現代」「東洋と西洋」の融合をテーマに、建築容積の 80% 以上を地中に埋設し、建物の上にも自然を復元しています。幾何学模様が織りなすガラス屋根からは、明るい太陽の光が降り注ぎ、訪れる人をやさしく包み込んでくれます。

■ 施設としては、2つのホール、オリジナルグッズをそろえた 3つのショップ、無肥料・無農薬の厳選食材を使用したレストラン、喫茶各 1 店舗があります。レストラン別室では、団体様用の昼食も提供しています。**MIHO MUSEUM** は 30 万坪の敷地に、信楽の大自然、建築、美術品、すべてが融合した感動の空間です。





枝垂れ桜のプロムナード

美術館棟へは、枝垂れ桜のプロムナードから、自然光を映し込む銀色のトンネルを抜け、深い谷を越える吊り橋を渡って行きます。

桜の開花時期(4月中旬ごろ)には、ホームページに随時桜情報をアップいたします。

----- 報道関係者の本件に関するお問い合わせ -----

MIHO MUSEUM 学芸部 広報：

TEL.0748-82-3411 FAX. 0748-82-3414

〒529-1814 滋賀県甲賀市信楽町田代桃谷 300

ホームページ URL <http://miho.jp>